

調査の結果

アンケート調査結果における各設問の母数 n (Number of caseの略) は、設問に対する有効回答者数を意味している。

各選択肢の構成比 (%) は小数点第 2 位以下を四捨五入している。このため、択一式の回答については構成比の合計が 100% にならない場合がある。

複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が 100% を超える場合がある。

グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は % とする。

< 施策に向けての一言 > は、関西学院大学法学部 山田 真裕 教授によるものである。

調査の結果

(1) 生涯学習について

「生涯学習」とは人間が生涯にわたって豊かに生きていくため、生活の向上や職業上の能力の向上などを目指して行う学習で、学校での学習や教養を高めるための学習活動のほか、文化・芸術、スポーツ、趣味や娯楽、ボランティア活動などの活動や学習が含まれます。そこで、市民のみなさまのご意見や実際にどのような学習を行っているのか等をお聞きし、今後の生涯学習の推進の参考とさせていただきたいと考えています。

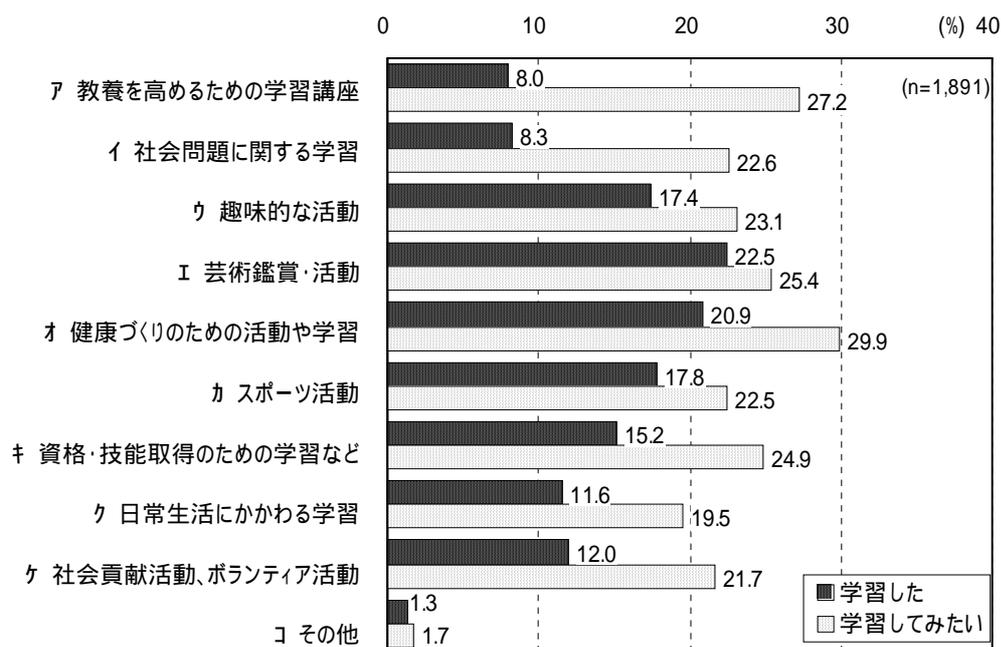
生涯学習の経験と希望

問9 この1年間でどのような生涯学習をしましたか（あるいは、したいと思いませんか）、以下のそれぞれについて、あてはまるものすべてを選んでをつけてください。

健康づくり、教養などへの希望が高い。

- ・学習した経験では 音楽・美術などの芸術鑑賞・活動（22.5%）、ウォーキングなどの健康づくりのための活動や学習（20.9%）などの割合が高い。
- ・学習してみたいという希望では ウォーキングなどの健康づくりのための活動や学習（29.9%）、歴史・文学など教養を高めるための学習講座（27.2%）、音楽・美術などの芸術鑑賞・活動（25.4%）などが上位である。

生涯学習の経験と希望



- ・学習してみたい分野について年齢別にみると テニス、水泳、ゴルフなどのスポーツ活動 仕事に役立てるための学習や資格・技能取得のための学習 料理や洋裁、育児など家庭や日常生活にかかわる学習 などは若い世代で希望が高い。

属性ごとの 全体との差 (単位は%)	ア 歴史・文学など教養を高めるための学習講座	イ 政治・経済・環境などの社会問題に関する学習	ウ 生け花・茶道・園芸・読書などの趣味的な活動	エ 音楽・美術などの芸術鑑賞・活動	オ オーキングなどの健康づくりのための活動や学習	カ テニス・水泳・ゴルフなどのスポーツ活動	キ 仕事に役立てるための学習や資格・技能取得のための学習	ク 料理や洋裁、育児など家庭や日常生活にかかわる学習	ケ 社会貢献活動、ボランティア活動	コ その他
全 体(n=1,891)	27.2	22.6	23.1	25.4	29.9	22.5	24.9	19.5	21.7	1.7
20～29 歳(n=122)	25.4	27.9	33.6	28.7	29.5	42.6	39.3	38.5	32.8	1.6
30～39 歳(n=282)	25.2	24.1	28.7	24.8	31.6	37.2	40.4	35.1	22.7	2.1
40～49 歳(n=379)	28.5	24.8	25.1	31.9	35.4	27.4	40.1	21.4	24.3	2.9
50～59 歳(n=284)	34.9	27.5	25.7	35.6	37.7	25.0	28.5	19.4	29.9	1.4
60～64 歳(n=175)	29.1	21.7	24.0	25.1	35.4	20.0	15.4	14.3	22.9	1.1
65～69 歳(n=216)	29.2	19.4	17.6	19.0	29.2	12.0	11.1	10.6	23.1	1.9
70 歳以上(n=424)	21.2	17.0	15.6	15.6	17.5	7.1	5.7	9.0	9.0	0.7

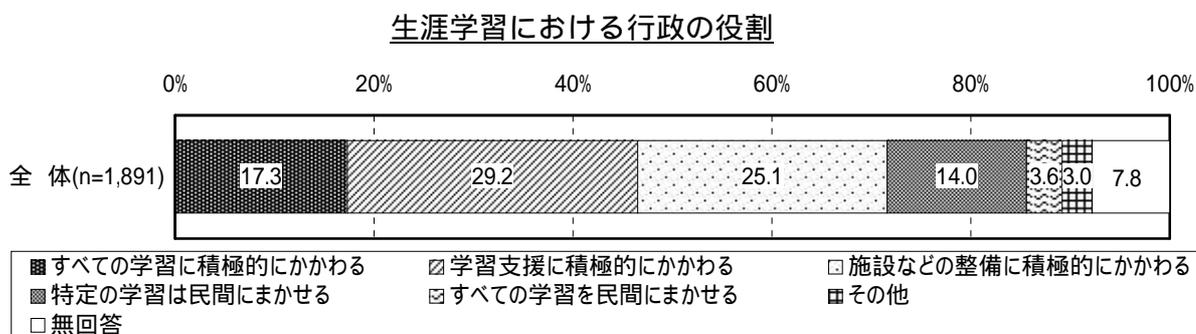
数値の太字斜体は、全体を10ポイント以上上回るもの。

生涯学習における行政の役割

西宮市やその近接地には、カルチャーセンター等の民間の学習施設が数多くあります
 問10 が、今後の生涯学習において、行政はどのような役割をするべきだと考えますか。
 (1つ選んで)

学習支援、次いで施設整備。

- ・「情報提供や相談窓口など、学習支援について積極的にかかわるべき」が29.2%、次いで「生涯学習を実施する為の、施設などの整備について積極的にかかわるべき」が25.1%である。
- ・行政が全面的にかかわる「教養や趣味・娯楽などを含め、すべての学習に積極的にかかわるべき」は17.3%、民間が全面的におこなう「すべての学習を民間のカルチャーセンター等にまかせるべき」は3.6%で、行政に期待する傾向が強い。



- ・年齢別には、20～29歳の層で「教養や趣味・娯楽などを含め、すべての学習に積極的にかかわるべき」の割合が高い。

属性ごとの全体との差 (単位は%)	すべての学習に積極的に かかわる	学習支援に積極的に かかわる	施設などの整備に 積極的に	特定の学習は 民間にまかせ	すべての学習 を民間にまか	その他
全体(n=1,891)	17.3	29.2	25.1	14.0	3.6	3.0
20～29歳(n=122)	24.6	29.5	25.4	14.8	1.6	0.8
30～39歳(n=282)	17.7	32.6	24.8	16.3	2.8	2.1
40～49歳(n=379)	18.2	30.1	28.8	14.2	3.2	2.6
50～59歳(n=284)	15.1	34.5	26.4	15.5	1.8	2.5
60～64歳(n=175)	15.4	30.9	29.1	10.9	2.9	3.4
65～69歳(n=216)	19.4	26.9	25.9	13.4	5.6	1.9
70歳以上(n=424)	14.6	23.1	19.3	13.0	5.9	5.2

数値の太字斜体は、全体を5ポイント以上上回るもの。

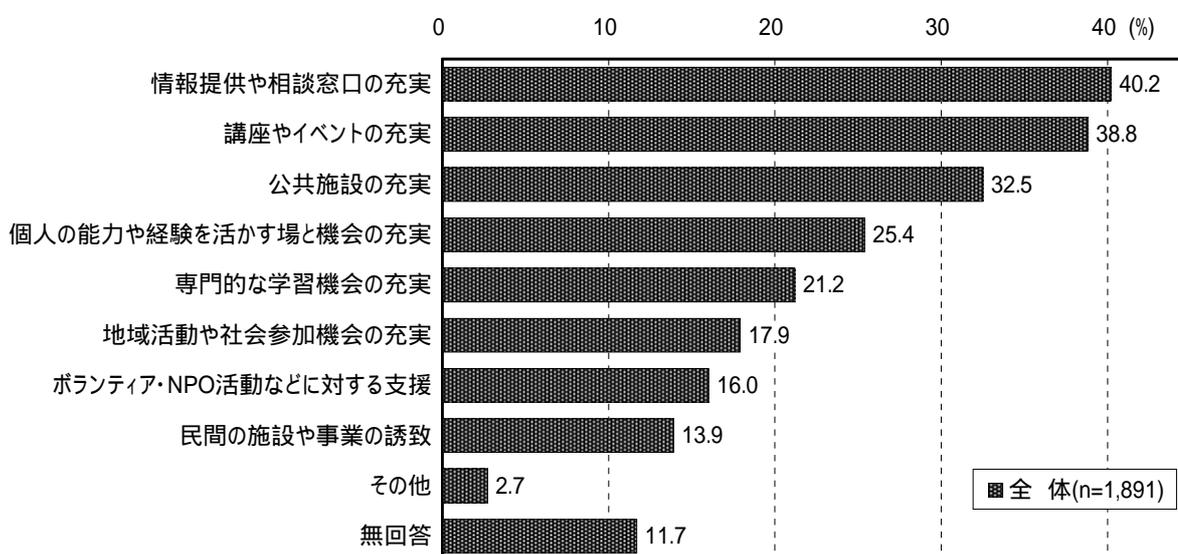
生涯学習を豊かにするために必要な施策

問11 ご自身の生涯学習を豊かにするためには、どのような施策が必要と考えますか。主なものを3つまで選んで をつけてください。

情報・相談と講座などの提供、次いで施設の充実。

- ・「生涯学習についての情報提供や相談窓口の充実」(40.2%)、「教養・文化・スポーツなどの講座やイベントの充実」(38.8%)、「生涯学習のための講座や集会に利用できる公共施設の充実」(32.5%)が3割以上の支持を得ており、情報・相談機能、一般的な学習機会の充実、学習の場の充実が望まれている。

生涯学習を豊かにするために必要な施策



- ・年齢別にみると、全体で第1位であった「生涯学習についての情報提供や相談窓口の充実」は年齢による大きな差はないが、第2位の「教養・文化・スポーツなどの講座やイベントの充実」は20歳代では11ポイントも高くなっている。

属性ごとの 全体との差 (単位は%)	情報提供や 相談窓口の 充実	講座や イベント の充実	公共施設 の充実	個人の能力や 経験を活かす 場と機会 の充実	専門的な 学習機会 の充実	地域活動や 社会参加 機会の 充実	ボランティア 活動など に対する 支援	民間の 施設や 事業の 誘致	その他
全 体(n=1,891)	40.2	38.8	32.5	25.4	21.2	17.9	16.0	13.9	2.7
20～29歳(n=122)	37.7	50.0	25.4	31.1	28.7	14.8	12.3	16.4	0.8
30～39歳(n=282)	41.5	43.6	30.1	30.5	27.7	14.5	15.6	20.9	1.8
40～49歳(n=379)	40.6	43.5	33.2	28.0	28.0	12.9	14.0	17.2	3.4
50～59歳(n=284)	44.4	45.1	35.9	30.6	23.9	21.1	18.7	17.6	1.8
60～64歳(n=175)	41.7	41.1	34.9	26.9	18.9	18.9	17.1	12.6	4.0
65～69歳(n=216)	44.0	32.9	35.6	21.8	15.7	23.6	20.4	8.3	1.9
70歳以上(n=424)	34.4	25.9	30.9	15.8	10.6	19.8	14.6	6.6	3.8

数値の太字斜体は、全体を5ポイント以上上回るもの。

施策に向けての一言 <生涯学習について>

めまぐるしいほどの技術革新が私たちの生活に大きな影響を与える中で、生涯学習に期待される役割もその重要性を増しているように思われる。平成2年6月29日に施行され、同14年3月31日に改正された「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」第2条には、「国及び地方公共団体は、この法律に規定する生涯学習の振興のための施策を実施するに当たっては、学習に関する国民の自発的意思を尊重するよう配慮するとともに、職業能力の開発及び向上、社会福祉等に関し生涯学習に資するための別に講じられる施策と相まって、効果的にこれを行うよう努めるものとする。」とある。生涯学習の振興、促進のために自治体としてどのような役割を具体的に果たしていくべきかが問われているのである。

問9では市民の生涯学習の経験と希望について尋ねている。実際の参加としては芸術鑑賞・活動が22.5%。健康づくりのための活動や学習が20.9%、スポーツ活動17.8%、趣味的な活動17.4%がこれらに次いで多い。学習してみたいという希望については、健康づくりのための活動や学習が最も多く29.9%を示しており、次いで教養を高めるための学習講座が27.2%、芸術鑑賞・活動が25.4%、資格・技能取得のための学習などが24.9%となっている。経験と希望の違いを見ると、教養を高めるための学習講座は希望こそ多いものの実際の参加は8.0%にとどまっている。学習してみたい分野を年齢別にみると20歳代、30歳代がスポーツ活動、資格・技能取得のための学習、日常生活にかかわる学習において全体平均を大きく上回っている。この世代は育児や仕事などでなかなか学習活動に時間を割くことが難しい場合があることがうかがえる。

行政の役割について尋ねた問10を見ると行政に期待する傾向は強く、しかもそれについては世代間で考え方にさほど大きな差がないことがわかる。必要な施策について尋ねた問11では情報提供や相談窓口の充実(40.2%)、講座やイベントの充実(38.8%)、公共施設の充実(32.5%)といった項目があがっている。

以上から、行政としてまずは生涯学習に関する情報提供や相談窓口の充実について、特に比較的若い勤労、育児世代向けに図られていくのが望ましいと思われる。生涯学習機会の充実が、地域活動や社会参加と結びつく形となり、西宮市内のソーシャル・キャピタル(人間関係資本、水平的な人間関係のネットワーク)を豊かなものにするすることで、行政からの一方的なサービス提供ではなく、行政と住民の協働関係がさらに円滑なものとなることが期待される。

(関西学院大学 山田真裕)